

## 安全データシート (SDS)

作成日:2023年1月13日

## 1 化学品及び会社情報

## 製品名:カメムシ zero ショット (450mL)

整理番号:24315

版数:01

供給者の会社名称 : イカリ消毒株式会社  
住所 : 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27番11号  
担当部門 : 商品開発部  
担当部門住所 : 千葉県習志野市茜浜1-13-4  
電話番号 : 047-451-5160  
緊急連絡先 : 商品開発部  
推奨用途及び使用上の制限 : 不快害虫駆除剤

FAX番号 047-451-0916  
電話番号 047-451-5160

## 2 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性:

可燃性・引火性エアゾール 区分1  
引火性液体 区分3

健康に対する有害性:

皮膚腐食性・刺激性 区分2  
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露) 区分3  
吸引性呼吸器有害性 区分1

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 区分1  
水生環境慢性有害性 区分1

## GHSラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

極めて可燃性/引火性の高いエアゾール

高压容器:熱すると破裂のおそれ

可燃性液体

眠気又はめまいのおそれ

飲み込み気道に侵入すると生命に危険のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

## 注意書き

安全対策

熱, 火花, 裸火, 高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

裸火または高温に白熱体、他の着火源に噴霧しないこと。

静電気放電や火花による引火を防止すること。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

加圧容器:使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。

粉じん、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

応急措置

吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズは外して

	洗うこと。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
保管	飲み込んだ場合：無理に吐かせず、直ちに医師の診断、手当てを受けること。 極端に高温または低温の場所、直射日光の当たるところに保管しないこと。 錆の発生しやすい水回りや湿気の多いところに置かないこと。
廃棄	中身を使い切ってから、火気のない戸外でガスを抜き、市町村で定められた方法で廃棄すること。

### 3. 組成、成分情報

単一化学物質・混合物の区別：混合物

化学名及び成分情報

原料名		含有率vol%	CAS No	化審法官報公示整理番号	安衛法 通知対象物質	PRTR法	毒劇法
内容液	C10-C12のイパラフィン	30~50	68551-16-6	(2)-10	非該当	非該当	非該当
			68551-17-7				
	ピレトリン		8003-34-7	-	該当	-	-
	ピフェントリン		82657-04-3	(4)-1701	非該当	非該当※	非該当※
	ピペロニルブトキシド		51-03-6	-	非該当	-	-
噴射剤	n-ブタン	50~70	106-97-8	4	該当	非該当	非該当
	i-ブタン		75-28-5		該当	非該当	非該当
	プロパン		74-98-6	3	非該当	非該当	非該当

※ 閾値以下のため

### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付いた場合	多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズは外して洗うこと。
飲み込んだ場合	無理に吐かせず、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

消火剤	噴霧水・泡・粉末・炭酸ガス（適宜、状況に応じて使用する）
使用してはならない消火剤	棒状の注水（火災を拡大する恐れがある）。
火災時特有の危険有害性	火災の現場にエアゾール容器があると破裂の恐れがある。 火災によって有毒なガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	指定の消火器を使用すること。 可燃性の物を周囲から速やかに取り除くこと。 関係者以外の立ち入りを禁止すること。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を充分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却すること。 移動不可能なものの延焼を防ぐ為、周囲に散水して冷却する。 漏えいしたガスは水噴霧等によって拡散させ、爆発を防止する。 周辺火災の場合は、容器を安全な場所へ移動する。
消火を行う者の保護	必要に応じて空気呼吸器及び防護服を使用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	付近の着火源となるものは速やかに取り除く。作業の際、保護具を着用する。 風下で作業をしない。 空気中に約 1.8%~9.5%濃度の範囲内で着火源があると爆発するので、安全が確認できない場合は近寄らない。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

保護具及び緊急時措置	漏えいした液体が気化すると体積は約 250 倍となり、空気中の酸素濃度を低下させるので、窒息の危険を防止するために換気をよくする。 液体の液化石油ガスが直接身体に触れると気化熱により凍傷を起こす。必要に応じて乾いた革手袋を着用する。
環境に対する注意事項 回収	帯電防止服・靴・革手袋を着用する。必要に応じて空気呼吸器及び防護服を使用する。 漏出物が河川等へ流出しないよう、注意する。 少量の場合は、乾燥砂又はおがくず等に吸収させて、化学物質専用の場所で焼却又は廃棄処理する。 多量の場合は、土砂等で囲み、液の表面を泡で覆い、できるだけ空容器に回収する。
二次災害の防止	漏えい個所の漏れを止める。 液化石油ガスは空気より比重が重く滞留の恐れがあるので、換気・拡散等を行う。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意	火気、静電気、衝撃火花など着火源の生じないように注意する。 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、換気の良い場所で作業をする。
保管上の注意	極端に高温または低温の場所、直射日光の当たるところに保管しないこと。 錆の発生しやすい水回りや湿気の多いところに置かないこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

日本産業衛生学会	: ブタン 500ppm : 1-メチル-2-ピロリドン 1ppm
米国産業衛生協議会 (ACGIH 2005 TLV-TWA)	: プロパン 1000ppm : ブタン 800ppm
設備対策	屋内で使用する場合は、換気をよくする。
保護具	
呼吸器の保護具	必要に応じて空気呼吸器を使用する。
手の保護具	必要に応じて乾いた革手袋を着用する。
目の保護具	必要に応じて保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	使用形態に応じた作業服、ヘルメットを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

(製品)	製品圧力 (25°C)	: 0.48±0.05MPa
	噴射量 (25°C)	: 17.3±3.0g/5 秒
(噴射剤)		

	プロパン	ノルマルブタン	イソブタン
融点	-189.7°C	-138°C	-160°C
沸点	-42°C	-0.5°C	-12°C
引火点	-104°C	-60°C	引火性ガス
燃焼範囲 (爆発範囲)	下限2.1% 上限9.5%	下限1.8% 上限8.4%	下限1.8% 上限8.4%
蒸気圧(40°C)	1.275MPa	0.278MPa	0.427MPa
ガス比重(空気=1)	1.6	2.1	2.0
液比重(水=1)	0.5	0.6	0.6
溶解度(20°C)	0.007g / 100ml	0.0061g / 100ml	不溶
オクタノール/ 水分配係数 (logPow)	2.36	2.89	2.80
発火温度	450°C	287°C	460°C
分子量	44.1	58.1	58.1

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常状態では安定。
危険有害反応可能性	高温、火花、裸火により発火。 強酸化剤と激しく反応し、発火又は爆発の危険性がある。 プロパン：二酸化塩素とは激しく爆発。
避けるべき条件	ブタン：ニッケルカルボニル+酸素との混合ガスは爆発を起こす。 燃焼（爆発）範囲内であって着火源があると、燃焼・爆発するのでその条件を避ける。
避けるべき材料	アルコールおよびエーテルに溶解し、石油類や動植物油、天然ゴムをよく溶解する。
危険有害な分解生成物	酸化性物質と激しく反応。 燃焼するとき十分な空気が供給されないと不完全燃焼し、有毒な一酸化炭素が発生する。

## 11. 有害性情報

皮膚腐食性・刺激性	C10-C12 のイパ ラフィン ウサギで中ぐらいの皮膚刺激性 PII=4.9、14 日後でも皮膚の不可逆的な障害が認められたとの結果 及び PII=4.2 で不可逆的な障害は認められなかったとのデータがある
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	LPG 呼吸器への刺激のおそれ、眠気又はめまいのおそれ
吸引性呼吸器有害性	C10-C16 のイパ ラフィン 炭化水素で粘度が低いので肺に入ると危険。

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	ピペロニルブトキシド	区分 1
水生環境慢性有害性	ピペロニルブトキシド	区分 1

## 13. 廃棄上の注意

中身を使い切ってから、火気のない戸外でガスを抜き、市町村で定められた方法で廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

陸上輸送	[容器表示]	消防法の分類名称、品名、数量、注意事項(火気厳禁)など必要事項を表示して下さい。
	[積載方法]	危険物を収納した運搬容器を積み重ねる場合は、自治省令で定める高さ以下にして下さい。運搬容器の外部には危険物の品名や数量等の表示をして積載して下さい。
	[その他]	運搬に関しては容器に漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にやり、消防法などでの法令に従ってください。高温(40℃)以上にならないように注意してください。移送時にイエローカードの保持が必要。
海上輸送		船舶安全法等に準拠(手続き、表示、運搬容器、積載量など)して運搬を行って下さい。
航空輸送		航空法等に準拠(手続き、表示、運搬容器、積載量など)して運搬を行って下さい。
国連番号		1950
国連分類		クラス 2.1 (引火性エアゾール)

## 15. 適用法令

消防法	第 2 石油類 危険等級Ⅲ
-----	---------------

	(噴射剤)適用 (消防法第9条の3: 圧縮アセチレン等の貯蔵等の届出)
高圧ガス保安法	適用除外
P R T R法	該当物質なし
労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物 (ピレトリン、ブタン) 名称等を表示すべき有害物 (ブタン)
船舶安全法	危険物 (高圧ガス)
航空法	危険物 (高圧ガス)
化学物質審査規制法	監視化学物質 (旧二監、官報公示整理番号: 4 1701)
毒物劇物取締法	非該当 (ピフェントリンは劇物であるが 閾値以下のため該当せず)
海洋汚染防止法	ブテンオリゴマー、X類物質

---

## 16. その他の情報

参考文献 製造委託先 SDS カメムシ zero ショット 2019年12月2日

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の実施を前提としたもので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策の実施をお願い致します。

### 【改訂履歴】

2023年1月13日: 製造委託先 SDS により作成 整理番号 20945 版数 01

---